

アカデミー通信

今度の中間が勝負だ!

中3生にとっては最後のチャンス! 中2生にとっては第1次入試、中1生は学力飛躍の時!

中3生は、来年の入試で40〜60% (高校により比率が異なる) を占める内申点が今回の中間テストで確定します。中3の内申点は2倍されるので、今回1教科の成績を1段階上げると2ポイント、2教科上げると4ポイント、前期の成績よりアップします。

中2生は、今学期の成績が選抜資料の内申点で三分の一を占めます。今回の中間テストがやはり大きなウエイトを持っています。

中1生は、高校入試なんてまだ先のこと、と思ってる方もいれませんが、実は今学期でいること、今の成績がずっとこれから先ついてきます。ですから、今こそまさに学力飛躍のチャンスなのですよ。

というところで、後期中間テストはだれにとっても大変重要なテストなのです。

夏期講習最終日に行った学力テスト(中3は真模試)の結果をもとに、10月から三者面談を行っています。大半の人はすでに終わったのですが、一部の中1・中2生にまだ面談をやっている人がいます。面談を行わない方も、生徒自身もまた保護者の方も勉強に対する意識や高校受験に対する自覚が変わってきます。ですから、まだの方は今度の中間テストまでに、一刻も早く面談を行うようお勧めします。

面談を行った結果、早速コースを変更して個別を加えたり、授業の復習や宿題をしつかりやるようになったり、成果を上げてきている人が

すでに何人もいます。

定期テストが終わるたびに毎回反省や後悔する人は多いのですが、それがなかなか具体的な行動に現れません。後悔するだけでは何の意味もありません。なぜ思うような結果が出なかったのか、テスト勉強を始めるのが遅かったのか、問題演習が足りなかったのか、知識があやふやなままテストを受けたのか、どのような間違いが多かったのか、どのようにすれば同じ間違いを繰り返さないで済むのか、等等具体的な考えればいくつも答えが自然と出てくると思えます。



今回のテストでは、これらの反省の上に立つて、前回の失敗の経験を活かさないければなりません。それがテストの意義だからです。さらに、自分は将来どのようなになりたいのか、そのためにはどのような高校に進学して、どんな勉強に力を入れ、大学はどこへ行こうか、何を学びたいのか、等等、目標が具体的にあればなるほど、今の勉強に力が入ります。

生活に活かす選択理論

今回は「基本的欲求」について学びました。今月号では引き続き「上質世界」を取り上げたいと思います。

そのために必要なのは、インターネットでいろいろ高校のホームページを見て、まず学校のことを研究すること。次に、学校説明会や、オープンスクール、部活体験、文化祭、体育祭などに積極的に参加して、学校の雰囲気を感じることが一番です。

目標がはっきりすると、それを達成するための方法が分かるようになります。また必要な力が生まれてきます。

「やる気が起きてこない」という人のほとんどは、目標がはっきりしていません。つい先日現在高校2年生の卒業生に会いました。中1に入塾したときには学力が非常に劣っていたが、中堅校の志望校に遠く及びませんでした。しかし、次第に欲が出てきて、もう1段上の準トップ校を志望校にしました。そして中2・中3と進んでいくうちに飛躍的に力が伸びてきて、中3の受験学年になってからはすごい集中力を発揮しました。塾の授業と授業の間の休み時間も惜しんで漢字の書き取りを練習したり、英単語を覚えたりして、どんどん力をつけ、不可能に思われた志望校に見事合格しました。

これは特別なことではなく、だれにでもできることです。このようなケースを私はこれまでたくさん見てきました。今度はあなたの番です。

良い人間関係を築く上でとても重要なことです。私たちはつい、自分の願望を相手に押し付けようとしてしまいます。そして自分の思い通りにならないと、次の7つの行動を取って相手を変えようとしてしまいます。

批判する
責める
文句を言う
不平を言う
脅す
罰を与える
褒美で釣る

この7つの方法を使い続けると人間関係はどうなるでしょう。二人の間の距離はどんどん開いていきま

す。だれでも自分を責める人の近くにいたいとは思わないからです。

「最近子どもが親の言うことを聞かない」、「親が子どものことを理解してくれない」などと言うときは、親子の関係が壊れている証拠です。もちろんほかの人間関係も同様です。

人間関係を改善する上で、上にあげた7つの行動を生活の中から取り除いていくことは、大きな効果があります。まず、お互いの上質世界を話し合い、分かち合って、相手の上質世界に何があるかを知ることです。自分とはあまりにも違う上質世界があることに驚くかもしれません。ただ、上の7つの行動を日常的に繰り返している状況では、人は自分の上質世界を分かち合おうとはしません。相手に批判されるのを恐れているからです。

人間関係を回復させる良い習慣とはどのようなものでしょうか。続きは次号に。

「社会科」=「暗記科目」だから覚えさせればよい、と言って「一問一答」形式の問題集をひたすら暗記している人が大勢います。確かに、社会は暗記しなければならぬことがたくさんあります。でも、社会を暗記科目と思っていない人は、社会が本当に得意な人はいません。

社会科もほかの科目と同様、「なぜ」がとて大切で、作文を書くときの「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「なぜ」「どのように」「どうした」という5W1Hをきちんとして理解しないで、丸暗記してもそのような知識はすぐに忘れてしまいます。また役立ちません。

そこで、社会の「超」勉強法をお教えします。

普段からNHKの「週刊こどもニュース」のような番組を見て、世の中の出来事に興味を持っておく。

地図帳をいつも身近なところに置いておいて、ニュースなどで国名や地名が出てきたらすぐに場所を調べ、地理の勉強法としては、まずは大まかな部分に注目する。たとえば世界だと、アジア、中東、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニアなど。日本だと、北海道、東北、関東、中部、近畿、四国、中国、九州地方。

次にその中の一つひとつの国や都道府県を見る。そして海や川、山、平野、砂漠などの自然の様子、気候、産業、次に首都や県庁所在地など、大きい部分から徐々に小さい部分を見ていくと、全体がよく見えるようになります。一つひとつが

ながって見えるようになってきます。歴史の勉強法としては、やはり大まかな時代とその特徴を、次に主な出来事、主要人物を、またそれぞれのつながり、流れをつかむようにします。物事には必ず原因があって結果があります。それを見つければ歴史はとて面白くなってきます。歴史マンガは入りやすく、また印象にも残るのでお奨めです。

社会「超」勉強法

公民の勉強法は、まずテレビや新聞で、日本国内の政治や経済、日本と世界のほかの国々との関係についてなど、興味を持ってみるということです。

公民に興味のない人がたくさんいますが、実は公民は私たちの生活に一番密着しています。そこに気づくと公民の勉強は意味が分かります。面白くなってきます。

どの分野の勉強にも共通することは、まずは興味を持つこと。次に全体から一つひとつの部分に目を向けること。そして、事項や人物、地名などを正しい漢字で正確に覚えることが大切です。

統計資料、年表、図説、史料などにも必ず目を留めましょう。学習の助けになります。「一問一答」は、知識の確認に使うと効果的です。

学んだ知識を確実に身につけるには、テストで得点できるようにするために、数多くの問題に当たる必要があります。問題はやりっぱなしにせず、覚えていながら繰り返してやると、確実に覚えるようになります。

学んだ知識を確実に身につけるには、テストで得点できるようにするために、数多くの問題に当たる必要があります。問題はやりっぱなしにせず、覚えていながら繰り返してやると、確実に覚えるようになります。